

高瀬神社 社報

越中一宮



平成二十五年

巳年

越中一宮

第36号

平成25年1月1日

越中一宮高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影:南部写真館 南部 輝氏



一年三百六十五日の過ぎゆくのは早いようでおそいです。平成二十四年が過ぎて平成二十五年の新しい年が来て人はいやでも歳を一つ送り一つ迎えねばなりません。

この新しい平成二十五年に何を望み何をどのように実施してみようと各種各様の夢をお持ちになられたと思います。

歳を重ねますと夢と現実との差が大きく我が身や能力に一抹の寂しさが頭から足の先まで駆け過ぎてゆきます。自分で老いたことを痛感し過去がうらやましく思うことが多々あります。私の書斎の窓から庭の柿の木に取り残された実が二つ三つ枝についているのを小鳥たちが懸命に啄んでいるのを見ていますと生きるとはどんなことなのかを考えさせてくれます。時々大型の鳥が飛来すると四方八方へ小鳥たちは逃げてゆきます。逃げ

宮司 藤井秀弘

ると云う事も啄むことも生きる手段なのでしょうが、可哀想に思うことがあります。唯小鳥たちが逃げてゆくときの逃げ方を見ていると単純ではないようです。少し小鳥の心のうちを考えてやると大型の鳥が憎らしく思い窓を開けて手をたたき大きな鳥を追いやると、しばらくすると小鳥たちが戻って来てなにごともなかつたように柿の実を啄みはじめるのですが、人の世もよくにかよっていると思いつながら自然の摂理の偉大さに感動すると共に教えられることの多きことに心を打たれます。

日々の生活の中で自分中心に考えて生活すると自然のすばらしさを感じとることは出来ないと思うのです。たとえば日々の生活の中の現象はあたりまえだと考えますと見えるものも見えなくなると思います。また、自分の考え方や思った事だけが正

しいと思う人間は人としての心や生きる過程を見失って自然からの教えを理解できず、小鳥たちのように逃げて戻るとそんな生き方が大切なのではと私は思うのです。

人は自分の生活の過程で反省と失敗を繰り返しそのなかに真実や心を発見するでしょう。その事が人としての成長にむすびつくと考えられるのです。「豊かな」「安全な」生活を人々は望むのですが、その反面「その日その日の生活が」と消極的になつてそれが安全、安定な生活と思っている人もいるようですがこれも自分を見失うことになりまます。常に自然の中に自分の生活を見出し出す努力が大切であると思えます。そのために自然をよく観察することと理解を深めることが必要だと考えます。それは人も他の動植物もすべて大自然の中に生きています。それから人間だけの自然ではありません。自然を愛することは自分自身を愛することになります。そうして人を愛することになるのです。新しい年は自然に親しみ愛し日々反省することを忘れずすばらしい一年にしたいと思うのです。

平成二十五(癸巳)年
皇紀二六七三年

謹賀新年

宮司 藤井秀弘
権宮司 藤井秀嗣
禰宜 齊藤直己
全 河合正登
権禰宜 浦 泰宏
全 長谷川宏幸
巫女 藤井友希
全 今井映里奈
全 今井茉莉奈
事務員 長尾美由紀
囑託 岩倉友子

祭事録

例祭

去る九月十三日、尾崎定輝富山県神社庁長・県内神社宮司をはじめ氏子・崇敬者五十名参列のもと、例祭が斎行されました。

宮司の祝詞奏上後、巫女による神楽「浦安の舞」が奉奏され、本年もコーラスグループ「ソット・ヴォーチェ」の先導により「高瀬神社奉賛歌」を参列者一同で奉唱しました。

御本社につづき、功霊殿例祭が斎行され、井波松風会員八名による吟詠「九段の桜」の奉納があり、ご遺族八十名とともに御英霊に感謝の誠心を捧げました。



観月祭(仲秋の名月)

去る九月二十九日午後六時より、第三回「観月祭」が斎行されました。

当日は高瀬高宝会による謡曲、巫女による神楽舞、鳳鳴クラブによる雅楽のほか、今年はじめて「ピユア燦ス」による大正琴が奉納されました。

台風が上陸する前夜ではありましたが、月明かりの下、仲秋の名月を楽しみました。



【大正琴】ピユア燦ス
荒城の月、昴

【謡曲・仕舞】高瀬高宝会
仕舞「海女」、謡「羽衣」

【神楽】高瀬神社巫女
剣の舞、胡蝶の舞

【雅楽・管弦】鳳鳴クラブ

壹越調音取、武徳楽、平調音取、陪臚

新嘗祭

去る十一月二十三日、新嘗祭が斎行されました。

祭典では、井波地域中核農業士協議会(池田喜昭会長)より献穀田で収穫された「コシヒカリ」と「白酒」が、砺波地区農業協同組合協議会からは幣帛が供えられ、永田喜一と名み野農業協同組合常務理事が幣帛供進使としてご奉仕されました。

また、恒例の篤農家表彰と篤志者・献穀田奉耕者への感謝状贈呈がありました。



(篤農家表彰)

佐伯 重則殿(高岡市福岡町上巖)
松井 俊明殿(南砺市北市)

(感謝状授与)

西村 精志殿(南砺市坪野)
開 修身殿(南砺市高瀬)
大和トランスポート(株)
代表取締役会長 村西更新殿
(小矢部市赤倉)

祭事暦

《平成二十五年》

一月一日	歳旦祭
一月三日	元始祭
一月七日	昭和天皇祭
一月十五日	天照大神祭
二月三日	節分祭
二月十一日	紀元祭
二月十七日	祈年祭
三月八日	鎮火祭
三月二十日	春季皇霊祭
四月三日	神武天皇祭
四月十日	春季皇霊祭
四月二十九日	春和祭
六月十日	祈年穀祭
六月十九日	風宮例祭
六月三十日	夏越大祓
七月十四日	稲荷社例祭
七月二十一日	人形感謝祭
八月七日	七夕祭
八月十六日	中秋祭
九月十三日	秋季皇霊祭
十月七日	村まつり
十月十七日	神嘗奉祝祭
十月吉日	献茶祭
十一月三日	明治節祭
十一月十五日	神明宮例祭
十一月二十三日	七五三祝祭
十二月二十三日	新嘗祭
十二月三十一日	師走大祓
全	除夜祭

◎毎月一日・十三日 月次祭
◎毎月十三日 交通安全祈願祭

杜のいきわい

剣道大会

秋風さわやかな九月十七日、「第五十回奉納剣道大会」が開催され、砺波地区の小中高校生の約二〇〇名の剣士により団体戦と個人戦の熱戦が繰り広げられ、日頃の練習の成果を競い合いました。



試合に先立ち、拜殿で奉告祭が斎行され、日本剣道形が奉納されました。また、本年は五十回記念として、頭に紅白の風船を着けた二

チームにより、大将の風船を割る「野試合」が行われました。尚、試合結果は次の通りです。

《団体の部》—敬称略—

- ▽小学生男・女
 - ①井波剣道スポーツ少年団
 - ②庄川剣道スポーツ少年団
 - ▽中学生男子
 - ①庄西中学校
 - ②福光中学校
 - ③般若中学校
 - ▽中学生女子
 - ①庄川中学校
 - ②井波中学校



《個人の部》

- ▽小学生男子
 - ①水口 脩弥 (井波)
 - ②杉森 佑紀 (井波)
 - ③武田 将往 (井波)
 - 永田 晃久 (砺波)
- ▽小学生女子
 - ①埴山 唯珠 (B&G砺波)
 - ②野原 菜緒 (砺波)
 - ③辻 乃々子 (庄川)
 - 藤森 早紀 (庄川)
- ▽中学生男子
 - ①丹川 浩太 (般若中)
 - ②藪 新太郎 (出町中)
 - ③松浦 健寿 (城端中)
 - 五十嵐浩樹 (庄西中)
- ▽中学生女子
 - ①青山 若葉 (井波中)
 - ②青山 萌 (井波中)
 - ③神田万里奈 (井波中)
 - 川瀬 日高 (出町中)
- ▽高校生男子
 - ①斉藤光 利 (福野高)
 - ②余西 宏斗 (福野高)
 - ③窪田 直道 (福野高)
 - 馬場 涼太 (砺波工高)
- ▽高校生女子
 - ①沖田 美咲 (福野高)
 - ②埴山 弥京 (福野高)
 - ③水口 妃奈 (福野高)
 - 湯浅 真澄 (福野高)

穀田だより

抜穂祭・初穂曳奉仕

去る九月十二日、南砺市坪野の西村精志氏(奉耕者)の献穀田に於いて、井波地域中核農業士協議会



(池田喜昭会長)による「抜穂祭」が斎行されました。祝詞奏上につき斎田が被い

清められ、関係者の見守る中、豊かに実った「コシヒカリ」を五名の早乙女(西村友美さん、板橋ひかりさん、木村紗都美さん、沢田夏海さん、木村侑紀さん)により丁寧に刈り取られました。



収穫された稲は、十月十七日、伊勢の神宮へ「神嘗祭」の「懸税(カケチカラ)」として奉獻されました。

迎春

株式会社ゴールドウイン

代表取締役社長 西田明男

セندان電子(株)

代表取締役会長 武田 修
代表取締役社長 武田 武美

砺波市庄川町五ヶ四四〇
TEL(〇七六三) 八二一五一一三〇

福光屋

祝儀料理
鮮魚仕出し

南砺市山見一七二〇

TEL(〇七六三) 八二一五〇八二(アスマモ店)
八二一〇七〇六(住出し部)

越中一宮高瀬神社指定 南部スタジオ

南砺市山下二七七
TEL(〇七六三) 八二一〇一三〇
富山店 南部スタジオ
富山市五福六区一八四五一六
TEL(〇七六) 四三二一八五五

宝石・記念品 あづちや

南砺市本町三十四八
TEL(〇七六三) 八二一〇三六六

シリーズ

高瀬の今昔

いまむかし

⑬

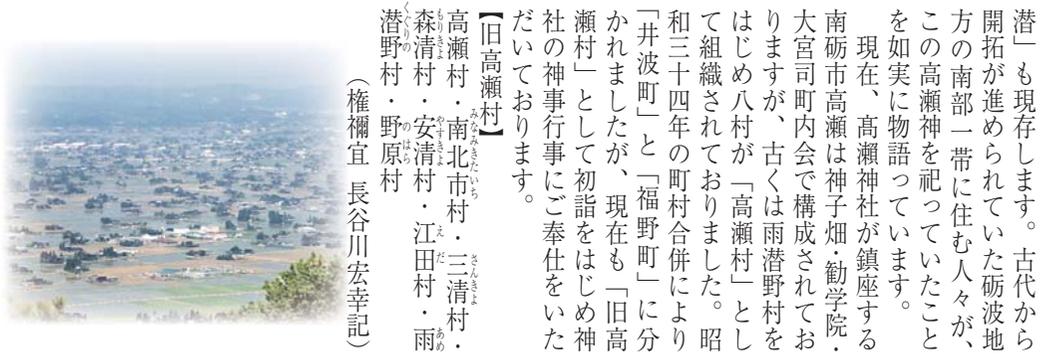
「旧高瀬村の今昔」

創始伝承

その昔、出雲の大己貴命(大國主命)が北陸の地を経営なされたとき、命は、自らの御霊を、この高瀬の地に祀られた。やがて、命はこの地も平定され、自らの魂も鎮め、この地を守る神とされて出雲へ帰られた。

この高瀬神は、その昔に高麗より渡られたもので、この地へお着きるときに、御神は、その足袋を川でお洗いになった。その川の流れば旅川と名づけられて、いまでもその名が残っている。この神さまが、そこから高瀬へ移られようとしたとき、にわかにも雨が降ってきた。その地を、雨潜野村と呼んでいる。

これらの伝承は古くより高瀬神社をはじめ氏子の方々に語り継がれてきました。特に二つ目の伝承では、農耕生活に関係の深い河川「旅川」に関することや、天候によって名付けられた地域「南砺市雨



【旧高瀬村】
高瀬村・南北市村・三清村・森清村・安清村・江田村・雨潜野村・野原村
(権禰宜 長谷川宏幸記)

潜」も現存します。古代から開拓が進められていた砺波地方の南部一帯に住む人々が、この高瀬神を祀っていたことを如実に物語っています。

現在、高瀬神社が鎮座する南砺市高瀬は神子畑・勸学院・大宮司町内会で構成されていますが、古くは雨潜野村をはじめ八村が「高瀬村」として組織されておりました。昭和三十四年の町村合併により「井波町」と「福野町」に分かれましたが、現在も「旧高瀬村」として初詣をはじめ神社の神事行事にご奉仕をいただいております。

くにたまの会

平成二十四年十一月七日、出雲大社に於いて「くにたまの会」設立総会が開催されました。

この会は「大國主大神様」をお祀りする全国の神社が共に手を携え、御神徳の宣揚と斯道の発展、そして地域の活性化に貢献すると共に、御神徳に結ばれました氏子の交流や親睦を深めべく発足されました。

本年五月十日には出雲大社「平成の大遷宮」が行われます。



迎春

婚礼着付

ノビアデサロンみたに

南砺市北川一八五二
TEL(〇七六三) 八二一〇四三三

巻御所落雁本舗

河内屋菓子舗

南砺市本町一の三四
TEL(〇七六三) 八二一〇四〇二

ブライダルサロン

アマノ

高岡市大手町二一八(環町通り)
TEL(〇七六六) 二四一四一一四

(株)林クリーニング

南砺市本町三丁目一四番地
TEL(〇七六三) 八二一〇二八九

全国にあなただの花をお届けします
花キューピット

ミナミフラワーショップ

アミ店 TEL(〇七六三) 一三二六三八八
FAX(〇七六三) 一三二六三八八

参拜日誌抄

(平成二十四年九月〜十一月・敬称略)

【九月】

四日

明治神宮崇敬会 理事長 男成 洋三

六日 富山縣護國神社 宮司 梅野 守雄

十日 南砺市遺族会井波支部御一同 (清掃奉仕) 南砺市遺族会福野支部御一同 (清掃奉仕)

十一日 氏子清掃奉仕(村総出) 日枝神社

十二日 宮司 平尾 旨明

十八日 立正佼成会御一同(清掃奉仕) 第五十回奉納剣道大会(奉告祭)

【十月】

一日 砺波高等学校御一同(合格祈願)

十三日 立正佼成会御一同(清掃奉仕) にこにこサロン野新御一同

十九日 大門高等学校三年生御一同 (一〇〇名(遠足))

二十二日 大津神社総代会(飛騨市) 総代長 熊崎 清二

二十四日 神社庁砺波支部御一同 (神宮大麻頒布始奉告祭)

【十一月】

六日 普明会教団高岡支部御一同

十三日 立正佼成会御一同(清掃奉仕)

二十五日 山寺日枝神社(山形市) 高見 秀也

ご結婚おめでとーございます

昨年六月から十一月までご婚礼の御儀を執り行われた皆様です。(挙式日、時間順)

(六月)

三日 谷川 洋樹

九日 高島 悠子

十日 大浦 晴貴

二十三日 上田 友則

二十三日 河森 真樹

二十三日 林 真一郎

十四日 三輪 辰彦

三十日 金田 裕志

(七月)

三日 川崎 和博

十六日 新井 知沙

二十二日 中嶋 慎治

二十三日 木田 勝也

二十九日 飯 貴弘

境野 亜希子

此川 典夫

西川 政幸

猪瀬 緑

七日 (十月)

(十一月)

十三日 吉本 桃子

十四日 神下 康弘

二十日 中嶋 真人

二十七日 澤田 浩和

河合 英樹

坪本 麻里

中村 敬也

紀美代 英里香

京極 直大

市山 博明

藤井 大亮

影近 孝哉

十八日 市川 祐弥

二十四日 竹中 佳子

濱元 安里

朝倉 敬善

嶋田 美希

陸子 拓実

知里 榮輔

ご新郎ご新婦の末永いご多幸とご両家益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

迎春

田島のし店

砺波市本町七一四 TEL(〇七六三)三一二五二〇

おいしいお菓子の研究所

(株)ミツシュローゼ

代表取締役社長 杉原 徹 TEL(〇七六三)二二三八八八

牧印刷株式会社

南砺市理休三三三二一 TEL(〇七六三)六二〇一一二 FAX(〇七六三)六二一三八二三

(株)ジオミックス

広告事業部 P R プランニング 小矢部市下中一三八 TEL(〇七六三)六七一八六七

看板とイベント・宣伝の オーバル

砺波市庄川町金屋一三〇五 TEL(〇七六三)八二四二二二

神道政治連盟推薦



参議院議員
比例代表(全国区)

ありむら 治子

「国運をたぐりよせる年に」

鎮守の杜を尊び、厳かなお気持ちで新年を迎えられました皆様のご健勝を念じ、心をこめて辛多き一年を祈願致します。

大震災をはじめとする天災・人災の国難が続きました。総選挙が終わって間もない今、改めて国難を嘆いてきたエネルギー

を、国運を形成する運気に転換・昇華する年にしたいという強い思いに駆られます。それぞれの

にあたり、歳旦祭、元始祭が執り行われ、皇室の弥栄、国家の隆昌が祈念されていることと存じます。国の興亡とともに、一人一人の人生においても運氣の波があります。楽しい時も難難に耐える時にも身を慎んでいく中で、一人の人間としての「人格」「人柄」が形成され、その人柄が家族をなして「家柄」を創り、その家々が集落となって「地域柄」を生み、その地域が集まって「国柄」が醸成されていきます。この風土や国柄に想いを馳せる時、「では、どうやって国運を上げることができるのか」という時代が求める命題に

自ずから突き当たります。

国運をなす国力とはすなわち、国民一人一人の運氣や力を国民の数だけ紡ぎ合わせた総合力だと、近年強く実感するようになりました。国民それぞれが自主独立の志と勤勉を尊び、子女に生きていく為の能力を伝授していかなければ、国運や国力は体をなしません。近代国家を建設した父祖達が、自らの生存と国家の存亡を重ね合わせて全力で苦難に立ち向かっていった人間像を遺していかれたように、今を生きる私達も、自らの運氣と国運とを重ね合わせて生きる錬度を上げていきたいものです。

本年夏に行われる参議院選挙 比例代表(全国区)に向けて、神道政治連盟から全国における単独候補としてご推薦を賜りました。「神道の精神を国政に、日本の心を政策に」と心に刻み、これからもますますに命の重み、家族のきずな、国家の尊厳を守る活動を全力で進めて参ります。

迎春

となみ野を便利に結ぶ...



チューリップ交通

本社 八二〇二六九代
八二〇五〇七代
貸切部 八二八八八 旅行部 八二七二一

電気設備 設計施工

(有)森田電気商会

南砺市高瀬五七三
TEL(〇七六三) 八二一〇六九一

神社仏閣建築設計施工

創業文政年間
森田建設株式会社

代表取締役 森田市五郎

小矢部市鷺島一七五
TEL(〇七六六) 六七一〇〇六九

青果・食材
フルーツギフト

中 村 屋

南砺市山見四四二一
TEL(〇七六三) 八二一〇〇三五

あなたの街のでんきやさん

ニューイングランド たかた

南砺市山下(井波行政センター前)
TEL(〇七六三) 八二一〇二一七

ご案内

節分祭 (豆まき)

二月三日

午後三時齋行

ご家族お揃いでご参列下さい。



戌の日 (安産祈願)

- 1月8・20日 7月 7・19・31日
2月1・13・25日 8月12・24日
3月9・21日 9月 5・17・29日
4月2・14・26日 10月11・23日
5月8・20日 11月 4・16・28日
6月1・13・25日 12月10・22日

腹帯のお祓いも行いますのでご持参下さい。

平成25年 厄年・身祝一覧

〔厄年〕 数え年

Table with columns for 前厄, 本厄, 後厄 and rows for 男 and 女, listing ages and corresponding years.

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。

〔身祝〕 数え年

Table with columns for 年齢 and 生まれ年, listing ages and corresponding years.

※男女ともに祝います。

奉納

- 「初穂米」十キログラム 南砺市高瀬 岩倉 勲殿
「初穂米」三十キログラム 岐阜県関市 小石達人殿
「神饌米」一八〇キログラム 南砺市 井波地域中核農業士協議会殿
西村精志殿
南砺市高瀬 岩倉和弘殿
「国旗」一流 南砺市高瀬 大和彌寿夫殿
「平成二十五年カレンダー」一組 南砺市高瀬 南砺市立井波高瀬保育園 園児の皆さん
十二月十七日
向拝第一鳥居「大注連縄」二張 南砺市戸出栄町 (株)老子製作所 老子秀平殿
高岡市吉久 (有)丸栄運輸 代表取締役 桑本吉将殿
高岡市戸出栄町 (株)丸伸製作所 代表取締役 丸中海信殿

高岡市角

クリックス商事(株) 代表取締役社長 栗山郁也殿
射水市二口 (株)大智 代表取締役社長 渡辺信作殿
射水市作道 (株)日吉プランナー 代表取締役社長 折橋康洋殿

十二月二十日 「干支(巳) 大絵馬」 南砺市山下 南部 栄殿
富山市古鍛冶町 大谷美術学園 園長 大谷弓子殿
十二月二十二日

編集後記

新年明けましておめでとうございます。いよいよ本年は、伊勢の神宮におきまして「第六十二回式年遷宮」が行われます。御遷宮にむけて、諸祭恙無く斎行されておりますこと、謹んでお慶び申し上げます。

当社社におきましては、今秋、装いも新たに「新参集殿」が完成し、伝統の中にも新風を吹き込む披露宴を行う予定です。

氏子・崇敬者の皆様には本年の「癸巳歳」も、高瀬の大神様の御加護を戴かれ、病気災難無く、益々お元気にお暮らしいただきますよう衷心よりお祈り申し上げます。

【表紙写真】

干支(巳)大絵馬と 大谷美術学園の皆さん

発行日 平成二十五年一月一日

発行所 越中一宮高瀬神社社務所

〒932-0252 富山県南砺市高瀬三九

TEL(0763)820933 FAX(0763)821304

編集人 浦

泰 宏

印刷所 牧印刷株式会社